

ぬくもり

2026年1月19日(月)

7年学年主任責任編集発行

1. 17

1995年1月17日午前5時46分。小学校2年生の私は、いつも通り家族で寝ていた。狭い家だったため、私と弟とその間に母が布団を並べて寝ており、父はふすまを取り払った隣の部屋で寝ていた。私の記憶では、ドーンと地面が突き上げられる感覚ではっとした瞬間、母が私と弟を守るために自分の布団に引っ張り込み、その上から羽毛布団を使って覆いかぶさってきたことを覚えている。私も弟も何が起こったかわからず、布団の隙間から父が寝ていた部屋の方を覗くと、父は部屋にあった大きなステレオコンポを揺れながら落ちてこないように必死で支えていた。その時、地震が起きたのだとわかった。次の瞬間、またドンっ!という音と共に視界が真っ暗になった。私たちが寝ていた部屋の上に置いてあった大きな荷物が、布団のぞき穴の前に落ちてきたのだ。重さにして10kg弱ほどだったと思う。もし、自分たちの真上に落ちてきていたとしたら、母も弟も私も大けがをしていたかもしれない。揺れが収まり、しばらくしてキッチンの方へ行くと、食器棚からはほぼすべての食器が床に落ちて割れており、足の踏み場もなかつた。テレビをつけると、どのチャンネルも地震の報道。神戸の街のあちらこちらから煙が上がっていた。それから毎日のテレビ報道は、地震による被害状況や被災地からの中継。リアルタイムに、死者や負傷者が増え、高速道路や線路がおもちゃをひっくり返したかのように倒れ、分断されている。ライフラインが寸断された神戸の街は消火活動が進まず、ただ燃え尽きるのを待つような状況だった。死者6,437名、負傷者43,792名、住宅被害639,686棟。甚大な被害をもたらした災害となった。小学校2年生の時の記憶なので、違う部分もあるかもしれないが、私自身が体験した阪神淡路大震災での記憶はいまだに消えない。

この震災をきっかけにいろいろなものが見直されました。全国の高速道路の支柱を太く頑丈にしたり、家具の固定が推奨されたりなど、震災の教訓から今日があります。あれから31年。この間にもたくさんの震災がありました。人はそのたびに立ち上がってきました。そして、今後くることが予測されている南海トラフ巨大地震の対策として、何ができるか考え、行動する必要があります。来週には地震を想定した避難訓練が計画されています。いつどこで起こるかわからない災害から自分の命を守るための行動を、そしてその上でまわりの命を守るための行動をとつてほしいと思います。

素直さ・縁(仲間)・考え方続けること(思考)を大切にする ⇒ あったかい学年に!!